

小新聞共有 3枚

本店レク 議事メモ

日時：平成23年4月5日(火) 12:30~13:30

場所：東京電力本店1階101AB会議室

先方：記者約50名(カメラ6台)

当方：原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所

福島第一原子力発電所

広報部

配付資料

- ・ 福島第一原子力発電所2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について(続報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について(第十三報)
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析結果について(第十一報)

Q. シルトフェンスなど、2号機ピットから海水への流入水の拡散防止対策の準備状況は

A. シルトフェンスについては、現在、資材の調達中であり、今週末には設置作業を開始したい。具体的なスケジュールは未定。拡散防止対策として、取水口のバースクリーンに鉄板を立てかけることも検討中。明日には設置したいが具体的には未定。

Q. ピット内の汚染水よりも流入水のほうが濃度が高いが、これは何を意味するのか。

A. 分析結果については、ほぼ同じ濃度と評価しており、ピットの水と同じものが海に流入していると考えている。

Q. 流入水について濃度限度に対する倍率が示されていないのはなぜか。

A. 濃度限度は、海に入ってから濃度についての基準であるため。

Q. 仮設タンクの発注日、流入水の動画の有無の確認が宿題だったがどうか。

A. 3月23日に発注している。発注先については確認する。動画については、カメラで関ししているが録画はしていない。

Q. サンプルの採取場所の距離は。

A. 確認する。

Q. 仮設タンクの設置になぜこれほど時間がかかるのか。

A. 広くて平らな場所が必要なため設置場所等の検討をしている。

Q. タイムスケジュールを示してほしい。

A. 了解。

Q. ピットから海への流入水の止水作業の進捗は。

A. 午後からボーリングを始めて14時頃に止水剤注入予定。

Q. 流入水のルートをどのように考えているか。

A. 碎石層がメインルート。一部がピットに流れ込んでたまり水となっている可能性がある。

Q. 止水剤とはどういうものか。

A. 水ガラスといわれる珪酸ナトリウムに硬化剤を混ぜたもの。配合により、硬化するまでの時間を調整できる。一般に様々な止水に用いられている。

Q. 水の流れの強い状況での使用実績はあるか。

A. 工事業者等と相談しながら実施しており、数カ所から注入することで止水できると考えている。

Q. 海水でも使用可能か。

A. 確認する。

Q. いつごろ止水ができると見込んでいるか。

A. 注入後1時間程度で効果が出ると思うが、実際に注入しながら進めていく。

Q. トレーサーは確認されたのか。確認されていないければその理由は。

A. 確認されていない。理由はわからない。

Q. トレーサーとしてなぜ入浴剤を使用したのか。

A. 入手の容易性や夜間の確認のしやすさから、白い入浴剤を使用した。

Q. 流入水について、濃度基準はないとのことだったが、排出基準と比較してどうか。

A. 法的な排出基準はない。

Q. 社内での排出基準はないのか。

A. 濃度ではなく、1プラントあたりの年間の排出量を $3.7 \times 10^{10} \text{ Bq}$ 以内になるように管理している。

Q. 今回の流入水の分析結果もとに年間の排出量年間にするとうどうなるか。

A. 流入水の量が確定できていないため評価できない。

Q. 止水剤により流入水が止まった場合、逃げ場のなくなった水が別の場所から出てくる可能性があるが、対策は考えているのか。

A. まずは、現在の流入水を止めることに注力し、様子を見ながら追加の止水剤注入を考えている。別の場所から出てくれば水のルートが特定できるため、その段階で対策を検討する。

Q. 流入水の量については、今後も把握するつもりはないのか。

A. 量については、物揚場等での分析結果なども踏まえて評価したい。

Q. 10リットルあたりで評価すると年間の量の排出基準を超えているのではないか。

A. 基準は1プラントあたりのため、発電所全体では6倍が基準となる。

Q. 昨日お願いした会長または副社長の会見は行わないのか。週に1回は副社長会見を行うと言ったではないか。

A. スケジュールの都合がつかないため、しばらく待ってもらいたい。

Q. プルトニウムの分析結果は。

A. 現在精査中であり近々まとめて公表したい。

Q. 分析センターの結果をどのような手順で評価しているのか。また、放射性物質の濃度から放射線量の換算は可能なのではないか。

A. お示しさせてもらう。

Q. 海水のサンプリングは、表面で実施しているのか。水深の深い所では実施しないのか。

A. 現時点では海水の表面のサンプリングを実施している。

Q. 分析は3種類で十分という認識か。

A. あくまでも速報値として3種類お知らせしたもので、他の核種については改めてお知らせさせていただく予定。

以上

情報共有

2枚

記者レク概要

日時：平成23年4月5日（火）13:30～14:00

場所：東京電力本館101AB会議室

先方：記者約65名（カメラ6台）

当方：原子力運営管理部

原子力設備管理部

広報部

配付資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月5日 午前9時現在）
- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・ 福島第一原子力発電所仮設モニタリングポストによる定点計測状況
- ・ 福島第一原子力発電所1～3号機プラント状況

質疑：

Q. 会見の中で海江田大臣が「1～4号機タービン建屋の溜まり水を2万t移送する」と発言していたが、事実か。

A. 確認させていただく。

Q. 原子炉冷却のための作業はどのようなことをしているのか。

A. 現状は外部電源を用いた仮設ポンプで注入している。注入量は1号機は6m³/h、2号機は8m³/h、3号機は7m³/h。それ以外にも、一部電源ケーブル工事が完了していないが海水系ポンプの設置が完了している。他にも残留熱除去系の炉水循環ポンプの検討をしているが、線量の高い水を処理したうえで現場の調査を進めることになるが、タービン建屋の水を処理しないと原子炉建屋にアクセスできないので、まずはタービン建屋の水処理を進めているところ。

Q. 原子炉格納容器のγ線モニタは読み取れているのか。データを公表して欲しい。

A. 読み取れているデータと読み取れていないデータがあると認識している。公表については検討させていただく。

Q. 5、6号機の水溜まりやサブドレンの放水経緯は。

A. 記録が残っている22日以降の情報を調べた情報をお知らせさせていただく。

22日時点でECCS系の部屋で5号機は4カ所、6号機は1カ所で地下水と思われる溜まり水の対応をしている。26日の時点で溜まり水6号機は4カ所に増えており、仮設ポンプで随時汲み上げている。28日頃からサブドレンのポンプを起動させるためのサンプリングを開始している。29日に溜まり水が増えており堰を超えないように管理している。

22日の時点でタービン建屋も5号機で4カ所、6号機は6カ所地下水と思われる水溜まりを認識し、ストームドレン系に流して処理していた。

建築部門は、5、6号機の原子炉建屋で計8カ所程度、タービン建屋も計10カ所程度補修を実施しているが、染み出ている状態が止まらなかった。

4月3日の時点で、6号機原子炉建屋のHPCSDG(電源設備)で、5cm程度の水の深さがあった。4日の6号機のスイッチギア室(電源設備)にも1cm程度の水がきていた。

このようにポンプ室だけでなく、電源系の部屋にも水が増えてきていることを把握したこと、また、23日以降、仮設タンクを発注したものの、納入まで時間を要することから、昨日の放出に至っている。

Q. 被ばく調査は何に基づいて計算しているのか。

A. 発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針に基づいて計算している。

Q. 原子炉水にトレーサーを入れることは検討しないのか。

A. 恐らく検討はしていると思われるが、実施のためには原子炉建屋へのアクセスが必要となる。

Q. コンクリートピットからの流水の動画はないのか。

A. 現場については、発電所の緊急対策室では常時見られる状態ではあるが、状況を録画した動画はない。

Q. 4号機タービン建屋に水を入れると、3号機の水位が上がるとのことだが、建物はつながっているのか。

A. 建屋自体はつながっており、通常は扉で遮られているため水は流れない環境にある。しかし、配管の貫通部や扉も精密性は完璧ではないため、そうこれらの箇所から流れている可能性もある。

Q. 監視カメラで確認した水位は。

A. 1号機タービン建屋は3日11時、4日11時でO.P. 5,220で変わらない。
1号機立坑は5日11時O.P. 2,950で昨日と変化なし。2号機タービン建屋地下は3日11時、4日11時でO.P. 3,000。2号機トレンチの立坑は5日11時O.P. 2,960で昨日と変化なし。3号機トレンチはO.P. 2,750まで水位が上がり、本日11時でO.P. 2,740に下がっているが、下がった原因は確認中。

Q. 5、6号機のサブドレンの状況は。

A. サブドレンの水位は目視で、原子炉建屋、タービン建屋ともに最地下階の床から2～3m程度上にあるが、サブドレンの排水によって地下階への浸水を防止している。

Q. サブドレンの水位が上がったのはいつからか。

A. 調べる限りでは、サブドレンのサンプリングや排水を要求しているのは23日以降になっているが、少なくとも23日には把握していたことになる。

Q. 5号機のタービン建屋の水の量は。

A. 確認中。

Q. 5、6号機のサブドレンの内部の水の総量は。

A. 確認中。

以上

情報公開 4枚

H23.4.5③議事メモ.doc 最終印刷日時: 2011/04/06 1:49:00

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時 平成23年4月5日(火) 18:35~19:35

場所 東京電力本店3階大会議室

対応 原子力・立地本部

原子力・立地業務部

原子力設備管理部

柏崎刈羽原子力発電所

広報部

マスコミ 約70人 カメラ10台

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所の現状
- ・ ピットからの流出水写真
- ・ 現状考えている対策工事
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 福島第一原子力発電所1~3号機 プラント状況

プレス文説明後に質疑応答。

Q. 止水剤3000リットル注入の効果はいつ分かるのか。

A. 仮設カメラの映像を監視している。作業は、連続して行う予定で、資料図面の①と②からの注入作業が終了した時点で効果を確認し、ボーリング装置を移動させて③と④から注入する。

Q. ピットからの流出水写真の撮影日時は。

A. 14:20頃。注入前。

Q. 止水剤1500リットル分の注入が終わった現時点で効果は見られるか。

A. 効果はあったと考えている。

Q. 写真の水の色が白いのはトレーサーによるものか。

A. トレーサーと考えられる。

Q. ラドと5・6号機のサブドレンピットからこれまでにどれだけ放出したのか。

A. 計算結果があるが、後ほどお知らせする。ちなみに、サブドレンピットについては、昨日21:00からポンプ1台、ラドについては、本日17:25からポンプ6台を稼働させている。

Q. メガフロートの到着時期と水を移送出来るようになる時期を教えてください。また、シルトフェンス設置完了の時期はどうか。

A. 本日15:00に清水港を出港している。今後、東京湾で内面の点検を行った上で1Fに向かうこととなっているが時期は未定。シルトフェンスについては、今週末から来週初めに出来るように準備中。

- Q. 放出している放射性物質の量に対する東電としてのコメントを。
- A. 放出してる量を線量としてどう評価できるかは検討中。
- Q. 昨日もお願いしたが、放出している放射性物質の核種と放射能の総量をペーパーにまとめて配布して欲しい。また、昨日の会見で、中性子が検出されていないため、再臨界にはなっていないとの話があったが、計測器の信頼性はどうか。
- A. 資料については急いで準備する。また、計測器はモニタリングカーに積んでおり、地震や津波の影響を受けていないため信頼できる。
- Q. 滞留水の海洋放出について、事前に農水省に連絡していなかったことについてどうか。また、海洋放出は国際条約に抵触しないか。
- A. 海洋放出については、経済産業省と保安院に了解をいただいているが、関係省庁への連絡があとになったことについては申し訳ない。条約に抵触するか否かは確認する。
- Q. 止水剤の注入はいつまでに行うのか。
- A. 合計 12000 リットルのうち 1500 リットルを注入済み。引き続き 1500 リットルの注入を行う。残りの 9000 リットルは図面の③と④に注入する。最終的にどれだけ注入したかは、残量から算出する。
- Q. 放出した放射性物質に対する主体的な評価を聞きたい。魚は安全に食べることが出来るのか。
- A. どういった評価ができるのか検討したい。
- Q. メガフロートはいつまでに欲しいのか。
- A. なるべく早く欲しいが、到着時期は未定。来週後半には 1 F に到着できるように努力している。
- Q. 仮説タンクの発注が 3 月 23 日で納入が 4 月 15 日とのことだが、もう少し早く納入できる方法はないのか。
- A. 我々としては検討を開始して最大限努力した結果と考えている。
- Q. 止水剤の注入、ボーリング作業、トレーサーの注入実績は。止水剤は流水が停止すれば注入は止めるのか。
- A. 14 時 18 分にボーリングの穴を空け、14 時 34 分にトレーサーを注入した直後に流水が濁った。15 時 04 分にガラス注入の指示があり、15 時 07 分にトレーサーを注入した。流水が止まれば止水剤を停止するなど、状況をふまえて注入する予定。
- Q. 海洋放出については漁民も困っていると言っている。放出量が 1 万 1,500 t を超えることはあるのか。
- A. 今回の放出は、より高濃度の放射性物質の放出を避けるための緊急避難的な措置と考えているが、誠に申し訳なく思っている。今後については仮設タンク等を用意して、そちらに放出したいと考えている。
- Q. 炉心の状況はどのように考えているのか。
- A. 冷却機能が喪失する等して原子炉水位が低下して、ある程度燃料が損傷したものと

H23.4.5③議事メモ.doc 最終印刷日時: 2011/04/06 1:49:00

考えているが、現在は、炉内への注水をバランスをとりながら行っており、小康状態を保っていると考えている。

- Q. 1～3号機のタービン建屋の溜まった水の量と移送先は。2号機のピットからの流水は少なくなったのか。
- A. 床面積と溜まり水の主な深さから想定すると各号機、2万t程度ずつ、計6万tあると考えている。これらの水の移送先は復水器を第一に考えている。どの程度かは不明であるが、若干流水の規模が小さくなったものと考えている。
- Q. 清水社長の病状は。
- A. 特段変化がないと聞いている。
- Q. 先日、細野補佐官が「メルトダウンを乗り越えた」と発言していたが、乗り越えたというのは何時のことか。
- A. ある程度の炉心損傷はあったものと考えているが、現在は炉内の状況は冷却もできており安定しているものと考えている。
- Q. 1,000mSv以上の線量を測る測定器はあるのか。
- A. 確認させていただく。
- Q. プルトニウムの土壌分析の結果はいつ出るのか。
- A. 順次データを精査しており、準備ができ次第公表させていただく予定。
- Q. 放射性物質の海水への放出は国際条約に抵触するのか。東電はそうした事実を確認したうえで放出したのか。
- A. 確認させていただく。
- Q. 飛散防止のクリコート散布実績は。成果はあったのか。
- A. 本日は500㎡散布している。先日散布したものについては、しっかりと固まっており所定の効果があったと聞いている。
- Q. 今回、ピットを止水すると別ルートで流出すると思うが、別ルートから流出することも想定して対応しているのか。
- A. 溜まり水と立坑の水位については、監視カメラで継続的に監視する。仮に止水がうまくいったとしても、板やシルトフェンスの設置も検討したい。
- Q. 放出した放射性物質の海洋への拡散に関するシミュレーションの結果はあるのか。結果がまとまり次第教えて欲しい。
- A. 今回の放出に伴い、どの程度拡がったかの評価については、まとまり次第お知らせさせていただく。
- Q. 人員体制は十分に対応できているという認識か。
- A. 事故発生当初は、連日勤務になっていたが、現在は福島第二原子力発電所や柏崎刈羽原子力発電所、配電部門や工務部門の応援もあり、200名超で交代勤務の対応をし

ている。それに加えて、自衛隊や消防隊等の方々にもご協力いただいている。

以上